

平成 30 事業年度業務実績に関する評価結果に対する対応

(令和元年 12 月現在)

地方独立行政法人法第 29 条の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学評価委員会による「平成 30 事業年度業務の実績に関する評価結果」に関して、特に重要な指摘に対する取組を公表します。

■課題（指摘事項） 1

課題 (指摘事項)	【大項目別評価】教育の質の向上に関する目標を達成するための措置 開学当初から課題が山積の中で良く努力され一定の成果が出ていると思うが、一層の向上には教育内容・手法の充実と改善に関わる自己点検・評価委員会の取り組みが重要である。同委員会の役割を明確にして、教育内容や教育手法の充実と改善業務を定期的に点検し、適切な助言、指導、指示を行い、着実に成果を出していく必要がある。
課題 対応	令和 元 年 度 今年度、自己点検・評価委員会において、半期ごとに教育の成果、内容、実施体制に関する項目を含めた年度計画の進捗状況を確認し、各委員会及び事務局に対して助言、指導等を行う P D C A サイクルを構築し、9 月より動き出した。

■ 課題（指摘事項） 2

課題 (指摘事項)	【全体評価】 全国から志願者を集め、入学定員は充足しているものの、北近畿地域からの志願者及び入学者が少ないという課題が依然として残っている。「地域で学び、地域で働く」循環システムを構築することが、法人の責務である北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することにつながるものである。については当地域の高校へのヒアリング結果を分析し、学生募集活動に創意工夫を凝らすとともに、当地域の高校生が入学したいと思える大学となるよう、より一層大学の魅力作りに取り組んでいただきたい。	
課題対応	令和元年度	大学及び入試の説明会や出張講義への依頼に対しては可能な限り対応し、2019（令和元）年度は、40回（うち教員の出張講義が29回）対応している。 地元高校からの訪問や問い合わせの窓口を一本化し、高校教員との関係強化に取り組んでいる。 また、情報学部に関する説明会や設置認可の審査継続の報告（9月上旬に実施）など、進路に関する重要案件については、地元高校については訪問して案内を行い、丁寧な説明を行ってきた。 「地域で学び地域で働く」循環システムについては、魅力を感じ住むことが選択される地域づくりに向けて、自治体・企業等を含めた地域社会全体の取り組みが必要である。
	令和二年度以降	卒業後の進路については公立大学としての大学就職実績が明らかになる 2020（令和2）年度以降、北近畿地域の高校生・高校教員に卒業後の進路について情報提供を積極的に行う。また、情報学部の新設に伴い、北近畿地域における進路の幅が広がったことを訴求し、志願者の拡大につなげる。

■ 課題（指摘事項） 3

課題 (指摘事項)	【全体評価】 教学情報システムの導入が当初の予定より遅れたことにより、学生の教育に不可欠なポートフォリオの導入、教務システムの稼働や学生用Webサイトにアルバイト情報の提供などができなかったことは大きな反省材料であり、業務の進捗管理を適切に行い、学生の修学支援体制を充実されたい。
課題対応	令和元年度 教学情報システムの導入にあたっては、当初のスケジュールよりも時間を要し、遅れが生じた。この理由としては、①全体をとおしてマネジメントが不十分であったこと、②システムの導入に想定以上に作業時間を要したこと、③情報学部の申請資料作業業務と重なったこと、④システム導入の担当者が退職し、業務の引継ぎに時間を要したこと等が挙げられる。 教学情報システムは、15 のシステムで構成されているが、基本情報は全て入力済みである。10 システムは、平成 31 年 4 月に稼働開始した。残る 5 システムのうち 3 システム（Web 成績登録、Web アンケート、Web シラバス）は 7 月及び 11 月から稼働を開始し、2 システム（入試情報、センター試験）については、2020 年 3 月迄に稼働開始の予定である。ポートフォリオは、入力・運用について検討後、後学期より 2 年生を対象として稼働している。